

主桁に沿って移動 ～吊り金具トラバース～

使用頻度: 🧑🏫 🧑🏫 🧑🏫 🧑🏫

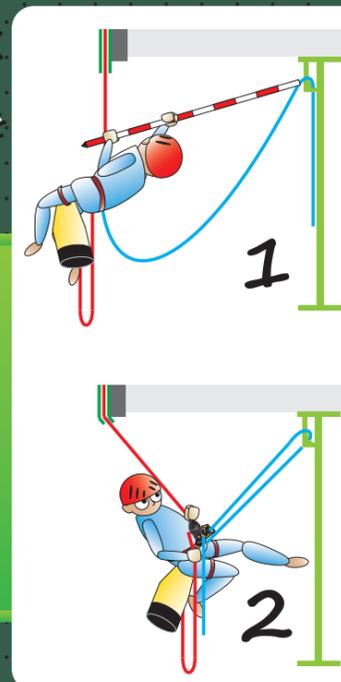
難易度: 🧑🏫 🧑🏫 🧑🏫

ロープアクセス技士レベル: 3

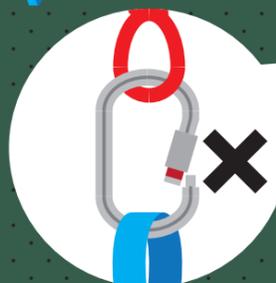
点検員は二人一組になり、先行する点検員がリビレイを構築、後行者はリビレイを解除しながら移動、点検をします

万一、支点が脱落した場合に二人の体重が同じ支点にかかることがないように、先行者と後行者の間は2支点以上開けるようにしましょう

吊り金具の間隔が広くリビレイの構築が難しい場合はサブロープを使って取りつきます(右図参照)



1本のロープをキャタピラのように循環させて使用することでリギングを素早く行うことができます。このとき垂らしたロープが木、架線などに引っかからないよう注意しましょう



デリギングしたカラビナ、スリングはノットに残したままにしますが、安全環を締めていないと木、鋼材などに引っ掛かった拍子にノットから抜け落ちることがあります。安全環を締めましょう

NRT (No Rope Technique)

橋梁の条件(吊り金具の間隔や主桁高さなど)によってはリギング、デリギングを一人で行いながら移動する方法を用いることができます。「SRT(シングル ロープ テクニック)」と対比し「NRT(ノー ロープ テクニック)」と呼びます。

3本のランヤード(可変カウズテイル×2本+ロングカウズテイル)を使い常に2点以上の自己確保をとりつつ移動、点検をします。

難易度: 🧑🏫 🧑🏫 🧑🏫 🧑🏫

※可変カウズテイル: ダイナミックロープと下降器を使った長さ調整が可能なランヤード。

